

共生細菌に関する調査

～生活環境の違いと腸内細菌～

アニコムグループではどうぶつ達の健康状態を類推する方法として、ヒトや家庭どうぶつの体内で共生している腸内フローラのバランスの分析が有効ではないかと考えております。

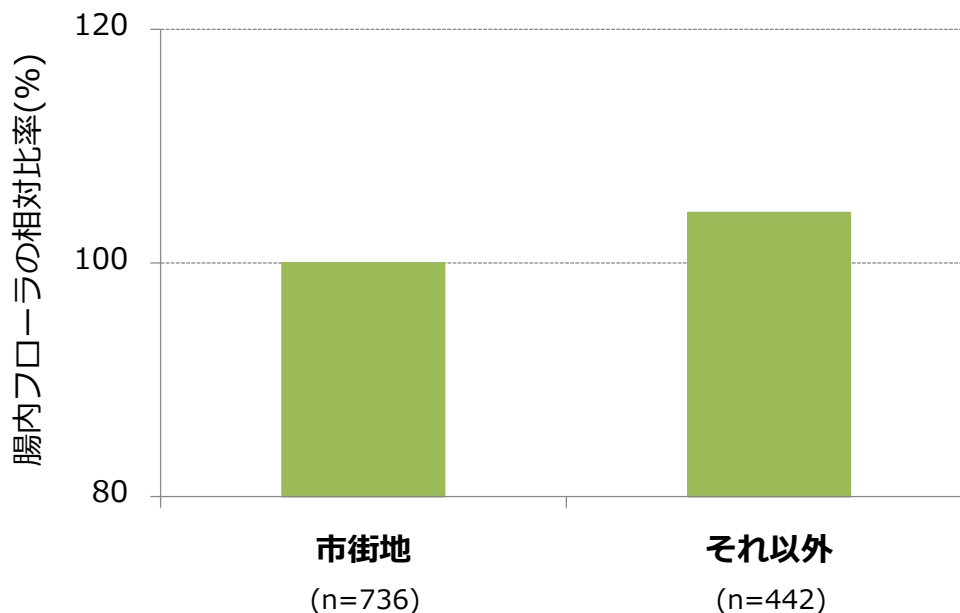
今回は、『生活環境の違いと腸内フローラ』について、調査結果をまとめました。

ひと同様、「いぬ」や「ねこ」の体内にも数多く存在する腸内細菌は、からだの健康にも大きく関与していると考えられるようになってきました。中でも、その多様性が豊かであることが健康に繋がるとの考察に着目し、腸内フローラの豊かさと、生活環境についての相関関係を調査致しました。

*本調査は、アニコムグループで行ったどうぶつkokusei調査におけるアンケート結果（2016.2）と、当該アンケートにご協力いただいたどうぶつの便に含まれる細菌の種類（多様性）を元に分析を行いました。



居住地による比較

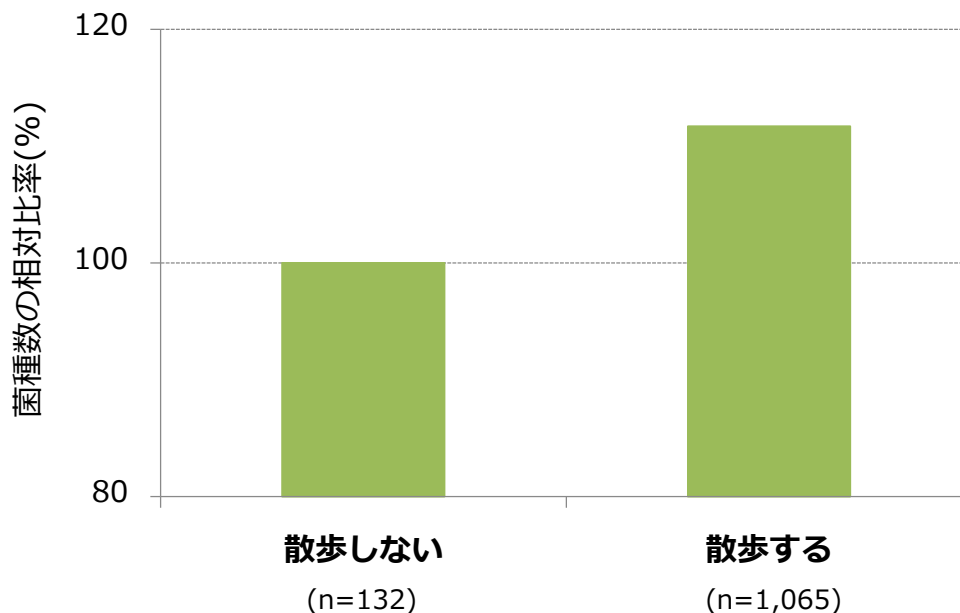


郊外に住む方が腸内細菌の多様性が豊かである

居住地によって、犬の腸内細菌の多様性に違いがあるか調べたところ、市街地よりも郊外のような自然のある環境で暮らす方が、腸内細菌の多様性が豊かである傾向にありました。

土などの自然にふれあうことで、そこに存在する菌が腸内に定着し、多様性を増やしているのかもしれませんが。

散歩の頻度による菌種数の差



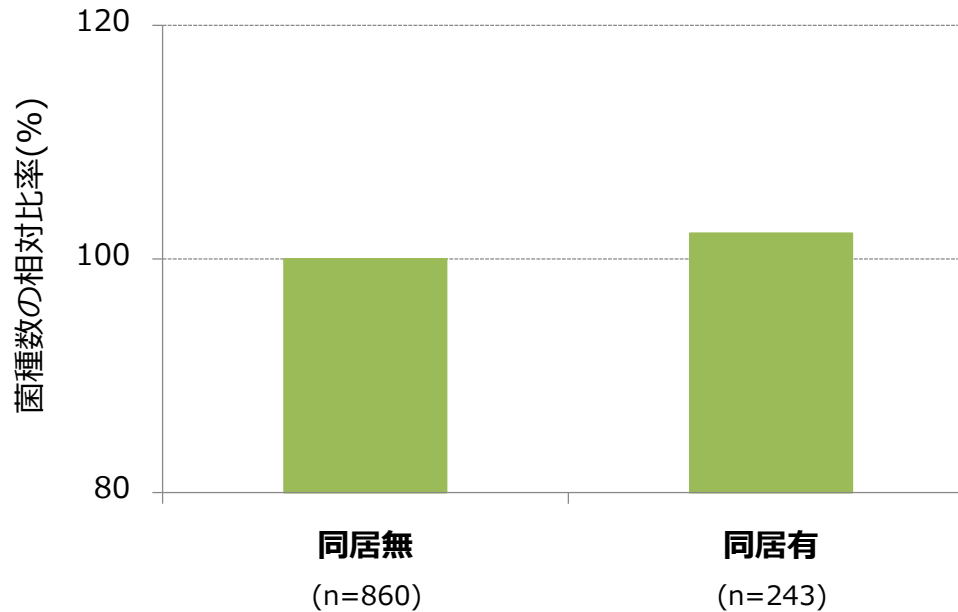
散歩をしている場合、腸内細菌の多様性が豊かになる

散歩の頻度により比較したところ、散歩に行くと回答した方が飼っている犬は散歩に行かない犬に比べ、腸内細菌の多様性が豊かな傾向がありました。

家の中にいるよりも、外に出ることで環境中の細菌に触れ合う機会が増し、結果として腸内細菌の多様性を増すことにつながっているのかもしれませんが。



同居中のどうぶつの有無による 菌種数の差



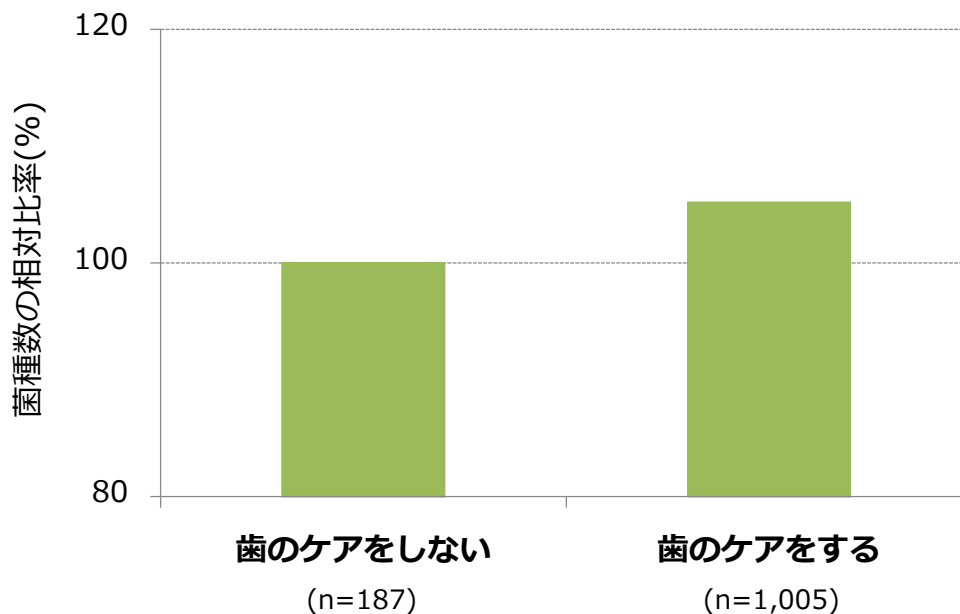
他のどうぶつとの接触が腸内細菌の多様性を豊かにする

他のどうぶつとの接触の影響を調べたところ、他のどうぶつと暮らす犬では、腸内細菌の多様性が豊かな傾向にありました。

様々などうぶつと接触することが、腸内細菌に多様性を増やすことにつながっているのかもしれません。



歯のケアの有無による菌種数の差



歯磨きといった歯のケアは腸内細菌の多様性を豊かにする

歯のケアの有無については、歯磨きなどをされている犬の方が、腸内細菌の多様性が豊かな傾向がありました。歯磨きを習慣づけることは腸内細菌の多様性を豊かにする可能性があるだけでなく、歯周病の予防にもつながります。一石二鳥と言えます。



	腸内細菌種数の比較		
居住地	市街地	<	それ以外
散歩の頻度	散歩しない	<<	散歩する
同居中のどうぶつの有無	同居無	<	同居有
歯のケア	歯を磨かない	<	歯を磨く

腸内細菌の多様性を豊かにする暮らし

ここまで紹介した項目は腸内細菌の多様性を豊かにできる可能性があるものの一例です。いきなり田舎に引っ越すことは難しいかもしれませんが、旅行に行くときに自然の豊かな場所に足を運んでみることもどうぶつの腸内細菌の多様性を豊かにする上では有効かもしれません。歯磨きや散歩といった習慣や、他のどうぶつとのふれあいを増やすなど、小さなことの積み重ねが腸内細菌の種類豊かな暮らしをもたらすそうです。

今回の調査で腸内細菌の多様性を増やす傾向にあった生活環境は、どうぶつの健康につながると考えられるものばかりでした。アニコムグループでは共生細菌と健康のつながりについて注目しています。

歯のケアについてはどのように腸内細菌へ影響しているかについては不明な点が残るものの、結果的には歯のケアと腸内細菌の多様性に相関関係があることがわかりました。

今後アニコムでは、歯のケアがどのように腸内細菌の多様性に影響するのか、口腔内細菌の多様性との関係といった点について検証を行って参ります。